

※過去のシニアの会だよりは、市老連H.P.<<https://rindou-senior-clubs.jimdofree.com>>の「単老広報誌」にアップされています

シニアの会各位

平素は理事会運営にご理解、ご協力を賜り御礼申し上げます。

自宅で寛いでいた元旦の夕方、突然“ゆーらゆーら”揺れだし「これはただ事ではないぞ」との予感が的中してしまいました。テレビでは、津波警報（その後、大津波警報に切り替わる）と志賀町の最大震度7が報じられました。そして、能登半島北部の陸域を含む広範囲の海域が縦ズレ逆断層となって滑り、地震の規模を表わすM（マグニチュード）は7.6で兵庫県南部地震を数倍上回る大きな地震であることが明らかになってきました。

裏面の「戦後における日本での主な被害地震（一覧表）」および「今後最も懸念される地震（参考の地図）」をご覧ください。私は戦後生まれなので、黒煙を上げる石油タンク火災が象徴的な1964年の新潟地震（M=7.5）が記憶に残る最初の地震です。今回の令和6年能登半島地震は、この新潟地震とほぼ同規模であり、兵庫県南部地震などと同じ最大震度7を記録した激しい揺れと津波を伴う大地震です。

地震被害の大きさや特徴は、地震規模や揺れの強さに左右されるのはもちろん、津波の有無、被災地の条件（都市部or地方、地形や地盤など）、地震発生の季節や時間帯によっても変わります。奥能登の元旦を襲った大地震では、街や集落に通じる命綱の道路が寸断され、日常生活でさえ大変な高齢被災者が多く、北国のこの時期での避難生活は長く厳しいものとなります。

来年は阪神大震災から30年を迎えますが、我々もすでに高齢者となり災害弱者です。そして、地震は何時、何処をどのような形で襲うのか分からない災害なのです。

※M（マグニチュード）：ある地震の大きさ（エネルギー）を表す指標

<例：令和6年能登半島地震のマグニチュードは M=7.6>

ちなみに、Mが1大きくなると約32倍<M8の地震は、M7の地震32個分です>

※震度：ある大きさの地震が起きた時、各地点の揺れの強さを表す指標

<例：令和6年能登半島地震において、志賀町の最大震度7だが輪島市は6強、金沢市は5強など>



※NHKニュースより

●シニアの会理事会の開催 <1月14日（日）11:00~12:00>

◇川西市老人クラブ連合会（市老連）からの退会について

「シニアの会」は、2010年頃より川西市老人クラブ連合会（市老連）に加入し活動してきました。高橋会長より①市老連の会合や諸活動への出席に対応する会長職の負担が大きいこと②退会後もマンション管理組合の下で施設やコピーなど無料で使用できる環境にあること③近年は毎年数件の退会老人クラブが散見されること等の説明があり、市老連退会の提案が示されました。出席理事の賛否を取り、全員一致で市老連からの退会に賛成であることが確認されました。

◇次回理事会の議題

・市老連退会後の予算配分について

来年度（2024年度）予算案作成に際し、市老連からの補助金（¥96,000）がなくなること、各クラブ間に分配される活動費の不平等解消問題、さらには会員から徴収している会費（現行は¥1,000）をどうするか等を反映しなければなりません。

前述の通り、理事会では「市老連」退会の方向で進んでいますが、例年のごとく役員人事の話も出ています。シニアの会設立から約14年が経過し、当初からの会員は同じ年数だけ歳を重ね超高齢化が進んでいます。一方、定年後間もない若い？高齢者の新規入会者はほぼ皆無です。人生100年時代にあって、定年後も現役に近い仕事を続ける（続けざるを得ない）高齢者には老人クラブの必要性も興味も薄いのでしょうか。今後、さらに超高齢化していくであろう「シニアの会」として、（安心して入会できるよう）個人に負担が集中しない緩やかな仕組みを考えてほしいものです<いろいろあって難しいとは思いますが・・・>。

さて、「シニアの会だより」は、新型コロナで活動が休止されたこともあり、情報伝達ツールとして2020年の春にスタートし、今回で第23回を数えるまでになりました。昨年5月の新型コロナ5類移行に伴い我々の活動もコロナ禍前に戻り、所期の役割をほぼほぼ果たせたのではないかと思います。従いまして、「シニアの会だより」は、今回をもって一旦終了とさせていただきます。このような仕事は初めての経験でもあり、内容については不確実な情報収集や拙いパソコン知識でのトライだったことに鑑み、何卒ご容赦ください。

最後に、避難所でじっと耐えておられる方々へ、一刻も早く「暖かい北国の春」が訪れますことを心よりお祈りいたします。4年近くの長きに亘り、誠にありがとうございました。



早く来い！ 北国の春

戦後（1946年～）における主な被害地震

地震の震源域 (:太平洋 :日本海 :内陸)

地震名 <発生年月日>	M (マグニチュード)	津波	最大震度	死者行方不明者	備考
南海地震 <1946.12.21>	8.0	○	5	1,443	震度の評価：0,1,2,3,4,5,6の7段階
福井地震 <1948.6.28>	7.1	—	6	3,769	この地震による揺れがあまりに激しかったため、以後震度7を追加し8段階に！
十勝沖地震 <1952.3.4>	8.2	○	5	33	
新潟地震 <1964.6.16>	7.5	○	5	26	液状化現象を認識し、構造物の耐震設計にも導入
1968年十勝沖地震 <1968.5.16>	7.9	○	5	52	
1978年宮城県沖地震 <1978.6.12>	7.4	?	5	28	ブロック塀の倒壊による被災が注目
日本海中部地震 <1983.5.26>	7.7	○	5	104	秋田・青森・北海道で、津波による死者100名
北海道南西地震 <1993.7.12>	7.8	○	5	230	奥尻島が30mの大津波で壊滅的被害
兵庫県南部地震 <1995.1.17>	7.3	—	7	6,437	この地震以降、震度5弱と5強、震度6弱と6強に細分化した10段階とし、現在に至る 通称「阪神大震災」
新潟県中越地震 <2004.10.23>	6.8	—	7	68	山古志村(当時)を始めとする顕著な地盤災害が注目
新潟県中越沖地震 <2007.7.16>	6.8	—	6強	15	2004年の地震と震源は近いが、関連性はなさそう
岩手・宮城内陸地震 <2008.6.14>	7.2	—	6強	23	東北内陸部での地震が続いた時期だが…3年後に起こる大震災との関連は??
東北地方太平洋沖地震 <2011.3.11>	9.0	○	7	23,769	通称「東日本大震災」
熊本地震 <2016.4.14>	7.3	—	7	273	4/14と4/16に、相次いで最大震度7の激しい揺れを記録した地震
北海道胆振東部地震 <2018.9.6>	6.7	—	7	43	激しい揺れによる土砂崩れに伴う被害が顕著
令和6年能登半島地震 <2024.1.1>	7.6	○	7	?	2024.1.15時点において、死者:221人、安否不明:22人 今後、関連死の増加が懸念されます

「プレートテクトニクス」と言う言葉をお聞きになった方は多いと思います。地球の表面が十数枚の薄くて固いプレートで覆われており、これらのプレートの動きによりさまざまな変動現象を上手く説明できるモデルだそうです。

西へ移動する太平洋プレートが沈み込む日本海溝で起こった地震による大災害が通称「東日本大震災」であり、プレート内の活断層が滑ったのが今回の令和6年能登半島地震です。

右図は、3つのプレートがひしめく日本列島近傍において、今後発生が最も懸念されるプレート境界で起こる海溝型の巨大地震、およびプレート内の活断層で起こる内陸直下型地震を想定したものです。

